

## 対 応 方 針 (案)

### 【事業名】大竹駅周辺整備事業

本事業は、J R山陽本線により東西に分断されている大竹駅周辺の市街地を高架橋の自由通路で結び、あわせて駅東側に交通広場を整備することにより、東西間の交通ネットワーク形成と、大竹駅周辺の活性化を図ることを目的に、平成7年1月、当初の事業認可を受け事業に着手したものである。その後、事業認可の変更、延伸を行いながら事業を実施してきたが、現時点では自由通路、交通広場の整備は未着工の状況となっている。

このような状況のなか、平成20年11月に開催した事業評価監視委員会から、「本事業を進めるにあたっては、事業効果をより一層高めるため、橋上駅舎など更なる住民の利便性向上について十分検討するとともに、コスト縮減に取り組むこと。また、本事業が大竹駅周辺地域における土地の利活用の促進など、地域の活性化につながるよう最善の努力を図ること。」との意見が付された。また、地元自治会や身体障害者福祉協会等から駅の橋上化やバリアフリー化等の実現に向けた陳情書が提出され、議会において採択された。

これらをふまえ平成23年度には、駅周辺のまちづくりや整備のあり方を見直し、自由通路単体ではなく大竹駅の橋上化と自由通路との一体化を含む「大竹駅周辺整備新構想」を策定した。新構想で示した、橋上駅舎の整備や駅西口広場の改良、東口広場の整備の必要性に基づき、平成26年度からは、自由通路、東西駅広場、橋上駅舎に係る基本設計等、計画の見直しを行った。

計画の見直しにより、自由通路と駅舎の一体化・橋上駅舎化と、既存の大竹駅西口広場の再整備、東口側に新たに交通広場が整備され、J R大竹駅へのアクセス性・利便性が一層向上する。また、バリアフリー化により、駅東西間の通行や公共交通機関の骨格をなす鉄道駅の利用について、高齢者や障害者等の移動の円滑化が図られる。さらに、東西市域の環境に好影響を与え、マンション・住宅建設等の誘導による人口流入で地域の活性化が期待できるなど、広島県の西の玄関口としてふさわしい、活力と魅力ある市街地の形成が期待できる。

このように、前回の事業評価監視委員会からの付帯意見等をふまえた対応方針に基づいて計画の見直しを行い、事業効果をより一層高めるため自由通路と駅舎との一体化及び橋上駅舎化したもので、この計画による費用対効果（B/C）を改めて算出した結果、前回再評価時点での便益を上回ることとなり、その投資効果が将来の市域発展に大きく寄与するものと考えている。

以上のことから、本事業を継続していくこととする。

平成29年11月8日

大竹市長 入山 欣郎